

地域社会との緊密な連携を築く

地域に密着し「繋ぐ」PTA活動

小牧市立陶小学校PTA

1 はじめに

本校は小牧市の東部に位置し、上末地区・下末地区・高根地区の3地区から構成されている。昭和60年に開校した本校は、令和6年に40周年を迎え、5月に記念の航空写真を撮影したところである。現在の児童数は168名で、開校時の419名から減少を続け、今年度はこれまでで最少の児童数となった。全学年1クラス、特別支援学級2クラスの小規模校である。



2 研究への取組

(1) 研究のねらい

令和2年から始まった4年間に及ぶコロナ禍は、PTA活動のみならず様々な学校行事・地域行事に制約をもたらし、その「引き継ぎ」をも困難にした。また、児童・家庭数が減少し、PTA活動・地域の活動に対して小規模ならではの保護者の負担が懸念される。しかし、逆に小規模ならではのメリットを活かし、地域ぐるみの繋がりを最大限活かす活動を展開していくことにした。

子どもは、家庭や地域の愛情や温かさに触れることで情操を豊かにし、家庭や地域への愛着を深めるものである。PTA活動の充実をめざし、学校・家庭・地域（地域協議会、陶っこoyajiの会など）との連携を深めることで、子どもの健全な育成を図りたいと考え、実態に即したこの地域ならではの活動を展開していくことにした。

(2) PTAの組織と活動の実際

本校のPTAは、会長・家庭教育委員などからなる総務部のほか、生活安全部・保体環境部・研修部・広報部の4つの専門部で構成されている。子どもを介して関わる活動に注力できるよう活動を精選し、PTA委員の負担軽減を図るとともに、「無理せず児童もPTAも楽しめる活動」であることを実感でき、引き続き、または新たに参加動機となるような活動を目指した。

令和5年度の活動として、総務部は「PTA活動の推進」や「体験講座『この指とまれ』」、生活安全部は「あいさつ運動」や「安全標識の点検、設置」、保体環境部は「運動会の準備・PTA競技の企画運営」や「『陶の森』の花壇整備」、研修部は「家庭教育推進事業」として「PTA教育講演会」の実施、広報部は「年2回のPTA広報誌『すえ』の発行」等を行った。

3 実践活動の概要

(1) P T A主催の活動

① 体験講座「この指とまれ」(総務部)

P T Aが主催となり、毎年度秋の学校公開日の中で開催している。地域住民をはじめとする様々な専門家、教職員が講師となり、児童が受けたい講座を希望する。親子で参加し、児童の学びを保護者が見守るといった感じの楽しく学べる講座をラインナップしている。子ども、保護者、地域の人々がふれあいながら、文化的・体育的な活動を楽しんでいる。



[本年度(令和6年度)開設された講座]

- | | | |
|---------------|---------|----------|
| ① プログラミング | ② クッキング | ③ 段ボール工作 |
| ④ バルーンアート | ⑤ ミニ四駆 | ⑥ 羊毛フェルト |
| ⑦ おもしろふしぎ科学実験 | ⑧ 焼き物 | |

② あいさつ運動(保体環境部)

小牧市青少年健全育成市民会議が推進する「笑顔でさきがけあいさつ運動」を兼ねて実施した。児童の登校時刻に合わせて、P T A生活安全部・区長・交通委員・教員が、主要交差点や校舎内外に立って声かけを行っている。その他、P T A交通安全委員をはじめとした全委員が交代で、6月、10月、3月に担当児童や教員と協力しながら、登校時に朝のあいさつ運動を行っている。

なかなかあいさつができなかった子どもたちが、次第に元気よくあいさつができるようになっていく姿を見られるのは、活動の喜びでもある。

③ 通学路調査、安全標識の点検・設置(生活安全部)

通学路での危険箇所を点検、集約し、児童が安全に通学できるよう必要箇所にストップマーク(「とまれ」の看板)を設置した。道路標識、各種表示の不備を見つけたときは、市役所と連携をとり、改善を目指している。

④ 運動会への準備、P T A競技の企画運営(保体環境部)

陶小学校では、児童数の減少に伴い運動会の内容も少なからず影響がでてきている。各種目の競技時間が短く、少ない教職員にとって一人一人の役割の多さも影響し、運動会全体の時間も短縮傾向となっている。そのため、本年度、P T A競技(「6年生V S保護者を含めた大人」のリレー)を取り入れ、保護者や地域住民も参加できる競技を企画運営することにした。当日は、競技する側も声援を送る側も大いに盛り上がり思い出に残るようなすばらしい時間となった。小規模学校だからこそできる「繋がり」の大切さを実感することできる運動会と言える。また、

企画の段階からPTA役員が何でも打合せをすることで、以前より結束が強くなったことも大きな成果であった。

⑤ 「陶の森」花壇の整備（保体環境部）

長年、地域の専門家の力を借りてデザイン花壇を作っている。保体環境部がデザイン案の選定や苗植えの作業を手伝っている。コロナ禍でしばらく学校に任せていたが、令和5年度から手伝いを再開している。

⑥ 家庭教育推進事業（研修部）

毎年2～3講座を企画、実施している。陶小学校に栄養教諭が勤務しているため、コロナ禍が明け始めた令和5年度から給食試食会と栄養講話をセットで開催している。その他、運動講座（令和5年度は「バランスボール講座」）や文化教養講座（令和6年度は「フラワーアレンジメント講座」）を行った。



⑦ 教育講演会（研修部）

毎年度、3学期の学校公開日に60分程度の講演会を開いている。内容は年度によって異なるが、毎回多くの保護者が参加している。

令和5年度はcocorovoices代表の川添美穂さんによる「成功させる勇気づけとは？～親だからできる本物の言葉～」を開催したところ、とても好評であった。令和6年度は愛知県民文化局が行っている「青少年のネット安全・安心講座」と題して、保護者向けに子どものネットモラルの重要性について講演していただく予定である。

⑧ PTA新聞「すえ」の発行（広報部）

毎年度2回、7月はじめと3月の卒業式前日に発行している。7月はPTA役員や教職員の紹介を中心とした記事を編集し、印刷まで広報部で行っている。3月は年間の活動の報告と卒業生へのメッセージを中心にデザイン会社に印刷を依頼し、発行している。

(2) 地域協議会との関わり

① 陶地区夏祭り

例年、8月初旬勤労センターにて地域協議会主催の「陶地区夏祭り」を開催している。以前から子どもたちにとって、この祭りの目玉であった、陶っこoyajiが中心となって企画する「お化け屋敷」がある。コロナ禍の中では、実施が困難な状況にあったが、本年度5年ぶりに再開することができ、子どもたちの喜ぶ姿がたくさん見られた。

② 防災訓練

本年度10月20日、小牧市総合防災訓練の一部として、災害時に備え、陶小学校体育館にて、炊き出し訓練、防災無線訓練、受付等設置訓練、避難スペース設営訓練、電源設置訓練、災害用トイレ設営訓練、段

ボールベットの設営訓練を実施した。PTAを含む多数の地域住民が参加した。南海トラフ地震がいつ起きてもおかしくない状況下で、この地域においても関心が高まっていることがうかがえた。

③ 凧あげ大会

例年、12月下旬、陶小学校運動場にて親子参加で凧揚げ大会を開催している。たくさん子どもたちが参加し、凧あげを楽しんでいる。令和5年度は、体育館でもバルーンアートを同時開催した。この行事も、地域住民が多数運営に携わり、サポートしている。



(3) 陶っこoyajiの会との関わり

例年、PTA役員の中で陶っこoyajiの会の兼任者を輩出しており、子ども、保護者、oyajiの会を繋ぐ役割を担っている。

① 陶小キャンプ

陶地区花火大会に合わせ、アトラクション、飯盒炊爨（はんごうすいさん）、花火観賞、体育館で就寝、翌朝花火の片付けまで行う陶小キャンプを企画・運営し、これが陶の伝統行事となってきた。

コロナ禍で中断していた陶小キャンプだが、令和5年度からデイキャンプとして復活した。



② 水鉄砲大会

8月下旬に夏休みの思い出作りを目的に、開催している子どもたちにとって楽しみな定例行事の一つである。保護者や校長も参加し、童心に返り楽しく参加している。



4 おわりに

今年度のPTA活動のテーマを「繋ぐ」として活動することで、より繋がることを意識して活動できた。また、日々のPTA活動を通して、学校・家庭・地域の連携を深めていくことで、子どもを軸にした家庭や地域、PTA同士の繋がりができ、地域社会との緊密な連携に寄与することができた。これらの成果は、子どもの健全育成を図る上で、欠かせない資質となり、小規模校ならではの絆が生まれた。PTA委員にとっても、みんなで楽しんで活動することで企画・運営していくことは、家庭環境に良い影響を与える機会ともなった。

今後も陶小ならではのPTA活動を繋げていきたい